

●複式学級では、どのような授業を行っているのでしょうか？

異学年の子どもたちが、同じ教室空間で学ぶ場合、大きく次の2通りの学習形態があります。

1つ目は、低・中・高、それぞれ2学年分の内容を2年間に配当して目標を達成する同単元同内容による指導(A・B年度方式)方法です。2つ目は、2つの学年に対して直接指導と間接指導を行いながら、異単元の内容を指導する方法(学年別指導)です。

学年別指導とA・B年度方式の長所と短所は、次のとおりと考えられます。

< 学年別指導 >

長所

- ・通常のカリキュラムで学習できるので、教科の系統性をふまえた指導ができる。
- ・転出入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応の必要がない。
- ・特に学年による差の大きい1・2年生において指導がしやすい。

短所

- ・直接指導と間接指導の組み合わせとなり、指導が複雑で難しい。
- ・2学年分の教材研究や学習の準備が必要となり、教員の負担が増す。

< A・B年度方式 >

長所

- ・異学年による多くの人数で学ぶことで、多様な見方や考え方が出る可能性が高い。
- ・個に応じた指導をする時間を生み出しやすい。

短所

- ・系統的な内容の指導、特に技術的な面の指導が難しい。
- ・下学年の児童の能力差や経験差が埋められない場合が多い。
- ・転出入児童に対する学年を超えた内容についての未学習への対応が必要である。

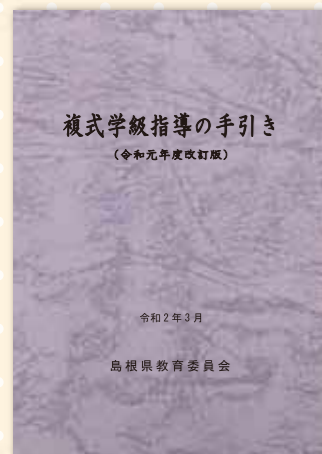
近年は児童数の減少等により、単式学級から複式学級になったり、欠学年が生じて単式学級になったりすることが多く見られます。このように単式・複式を繰り返す学級では、教科によっては学年別指導による指導が必要となってきています。

子どもたちや学級、地域の実態を把握し、各指導類型の長所、短所をふまえたうえで年間指導計画を作成し、子どもたちの成長につながる教育課程を編成することが求められます。

『複式学級指導の手引き』p.13「複式学級の指導計画」を参照

◆ 複式学級指導の充実にご活用ください ◆

平成26年度から複式学級指導の充実に向けた県内の教員向けの支援として、複式教育総合支援事業を実施しています。本リーフレットで紹介した複式教育推進指定校事業もそのうちの1つです。その他の取組を紹介しますので、各校での複式学級指導の充実に活用ください。



(1) 複式学級指導の手引き (令和元年度改訂版)

(2) 複式学級新任担当者研修

初めて複式学級を担当する教員及び希望者を対象に、5～6月に半日、2学期以後に1日(学校会場)の研修を実施する予定です。

(3) 出前講座の実施

島根県教育センターでは、複式教育をテーマにした「出前講座」を実施しています。

令和2年度は5校の学校へ出前講座に出かけました。

- 【内容】・複式学級における指導の在り方
- ・学年別指導の授業のビデオ視聴 等

(4) 先進地の実践事例紹介

(島根県教育用ポータルサイトに掲載)

他府県の複式学級の国語・社会・算数・理科の学年別指導の実践事例を掲載していますので参考にしてください。



複式学級指導充実のために

～令和2年度複式教育推進指定校事業リーフレット～

★複式学級とは、どんな学級か知っていますか？

児童又は生徒の数が著しく少ない場合、数学年の児童又は生徒を1学級に編制することができます。このような学級を複式学級と言います。

法的根拠：公立義務教育諸学校の学級編制及び教職員定数の標準に関する法律(以下「標準法」という)

1学級の児童又は生徒の数の基準は、標準法で示す数を標準として、都道府県の教育委員会が定めることとされ、島根県教育委員会では、独自に以下のようにしています。

中学校

特別支援学級を除き、法律で示された基準の生徒数8人以下であってもすべて「単式学級」として編制する。

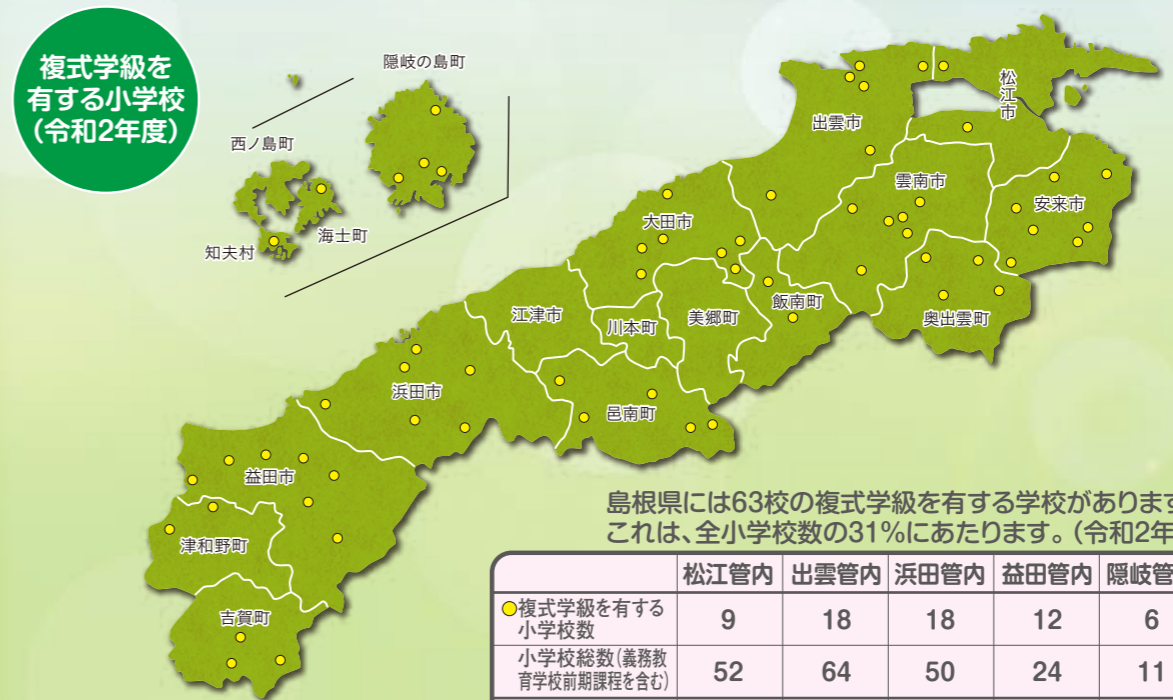
小学校

複式学級の児童数は16人(第1学年を含む学級は8人)すべて1・2年、3・4年、5・6年の組み合わせで編制する。

★島根県の複式学級を有する小学校の状況は、この10年で大きく変化しています

昭和50年代後半以降、島根県の複式学級を有する小学校数は、ほぼ90～100校の間で推移していました。

しかし、ここ約10年で市町村立小学校は約50校減少し、そのうち複式学級を有する小学校数は約15校減少しています。



島根県には63校の複式学級を有する学校があります。これは、全小学校数の31%にあたります。(令和2年度)

	松江管内	出雲管内	浜田管内	益田管内	隠岐管内	合計
●複式学級を有する小学校数	9	18	18	12	6	63
小学校総数(義務教育学校前期課程を含む)	52	64	50	24	11	201
複式学級を有する小学校の割合(%)	17	28	36	50	55	31

☐ 島根県教育用ポータルサイト 幼稚園/小・中学校>教育指導課>学力育成>複式教育

■ 発行/島根県教育庁教育指導課 学力育成スタッフ
TEL:義務教育担当 0852-22-6709

令和3年3月 島根県教育委員会

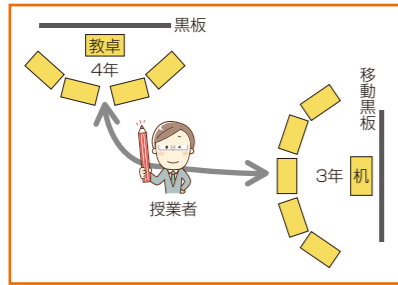
★★学年別指導のポイント★★

学習環境の整備

複式学級指導ならではの主体的・対話的で深い学びを生み出すためには、学習環境の整備がとても大切になります。

○効果的な学年別指導のための座席配置の工夫

児童の座席をL字型に配置し、それぞれの学年の児童が集中して学習に取り組めるよう工夫が図られています。また、授業者が各学年の児童の学習の様子を把握したり、同時間接指導において両学年の児童の後ろを立ち位置として児童の学習を見守ったりすることができます。



○移動式ミニホワイトボードの活用

移動式ミニホワイトボードとは、キャスター付きの背の低いホワイトボードのことです。低・中学年の児童にとって自分の考えを板書しやすいこと、簡単に移動させやすいことという利点があります。間接指導時には、児童同士がホワイトボード前に集まり、自分の考えを板書によって伝えたり、ホワイトボードに書かれた友だちの考えと比較したりする様子が見られます。



【R2 推進指定校 浜田市立波佐小学校】

※間接指導…学年別指導において、一方の学年が授業者から直接に指導を受けている間、もう一方の学年が自学自習を行う学習指導場面

※同時間接指導…学年別指導において、授業者が同時に両学年に間接指導を行う学習指導場面

『複式学級指導の手引き』p.45「学習指導方法の工夫・改善」を参照

主体的な学びを支える「ガイド学習」の活用

「ガイド学習」とは、間接指導をより充実させるために考え出された学習の形態のひとつで、学習集団の中からガイド役の児童を決め、そのガイドが授業者との話し合いなどにより立てた学習進行計画に沿って授業を進める方式です。

各学校では、「ガイド学習の手引き」等が作成され、間接指導時には児童はこの手引きを見ながら授業を進めます。手引きには、1時間の授業の進め方や、ガイド役としての声かけ等が記載されており、児童が自分たちの力で授業を進めようとする意識の高まりが期待されます。さらに、授業者自身も、児童に話し合いを任せようという思いが強くなり、児童による主体的な学習につながります。



ガイド学習の手引き【算数】(中学年用)

ガイド役の児童が、1時間の学習の流れの見通しをもつことができるようになっています。

ガイド役の児童の声かけが具体的に示されています。ガイド役の児童はこの手引きを見ながら学習を進めます。慣れてきたら、手引きを見なくても進めることができるようになります。



『複式学級指導の手引き』p.37「ガイド学習」を参照

【3年生】	【4年生】
<p>課題をもつ ・今日の学習を始めます。 ・問題を読みましょう。せーの。 ・何か質問はありませんか。 ・今日のあてを済ませましょう。 ・先生お願いします。</p> <p>自分で解決する ・まず一人考えましょう。 ・時間は○分です。</p> <p>みんなで解決する ・考えたことを発表してください。(あてる) ・付け足しや違う考えはありませんか。 ・質問はありませんか。 ・先生お願いします。 (答えがないとき、まとまらないとき)</p> <p>まとめをする ・今日の学習をまとめます。 ・どんなまとめにすればいいですか。(あてる) ・先生お願いします。 (答えがないとき、まとまらないとき)</p> <p>学習したことを確かめる ・学習期間をします。 ・時間は○分です。 ・わからないところがあたら早く終わった人に聞きましょう。</p>	<p>復習をする ・復習をやりましょう。 ・時間は○分です。 ・わからないところがあたら早く終わった人に聞きましょう。 ・答え合わせをします。</p> <p>課題をもつ ・今日の学習を始めます。 ・問題を読みましょう。せーの。 ・何か質問はありませんか。 ・今日のあてを済ませましょう。 ・先生お願いします。</p> <p>自分で解決する ・まず一人考えましょう。 ・時間は○分です。</p> <p>みんなで解決する ・考えたことを発表してください。(あてる) ・付け足しや違う考えはありませんか。 ・質問はありませんか。 ・先生お願いします。 (答えがないとき、まとまらないとき)</p> <p>まとめをする ・今日の学習をまとめます。 ・どんなまとめにすればいいですか。(あてる) ・先生お願いします。 (答えがないとき、まとまらないとき)</p> <p>学習したことを確かめる ・今日の学習をまとめます。 ・時間は○分です。 ・わからないところがあたら早く終わった人に聞きましょう。</p>

【R2 推進指定校 出雲市立上津小学校】

めざす児童の姿をもとにした直接指導と間接指導



※直接指導…学年別指導において、一方の学年が授業者から直接に指導を受ける学習指導場面

直接指導と間接指導を組み合わせる学年別指導では、1時間の授業の中においてそれぞれの指導によってどのような児童を育成したいのかをしっかりと考えることが大切です。

そのために、授業者は「めざす児童の姿」をしっかりとち、直接指導と間接指導における指導・支援のポイントをはっきりさせる必要があります。そうすることで、直接指導と間接指導のそれぞれの指導において、児童に必要な指導・支援を行うことができるとともに、授業のそれぞれの場面で児童の学習状況を適切に評価することができます。



算数の学習の進め方

学習活動と指導・支援のポイント	ガイド学習の進め方 (ガイドの言葉)	目指す子どもの姿	
		中学年	高学年
<p>○問題を読み、問題場面を想起する。 ○「読み」を確認する。</p> <p>ボ：課題を工夫して読みと、学習のあてを済ませよう。 ポ：課題を工夫して読みと、学習のあてを済ませよう。 ポ：課題を工夫して読みと、学習のあてを済ませよう。</p> <p>○学習のあてを決める。 ボ：既習事項を提示しておく。 ポ：一人一人の児童が自力解決できるように、実態に応じた個別指導をする。</p>	<p>○昨日は、どんな学習をしましたか。</p> <p>よ、う。とは何ですか。か。うところはありますか。</p> <p>○どうしたら解くことができそうですか。 ○あては何になりますか。</p> <p>○一人で考えましょう。</p> <p>○みんなで学び合いをしましょう。 ○困っている人はいませんか。</p> <p>○自分が説明しているところを指差ししながら、相手を意識して、自分の考えを話す。 ○(数の意味・立式の理由)等、パターンに沿って質問する。 ○数や言葉の言い間違いを指摘する。 ○質問の考えをはっきり話す。 ○考えをもらったことを、「つまり～ということですね。」と短くまとめて話す。</p> <p>○自分で解決したときは、先生を呼ぶ。 ○学習のまとめをする。</p>	<p>○聞かれていることを理解する。 ○聞かれていることを理解する。</p> <p>○聞かれていることを質問する。 ○友だちの質問に答える。 ○解き方を手探りする。 ○課題解決に必要な既習事項に気づく。 ○課題解決のために気を付けなければならない気づく。 ○学習のあてを決める。</p> <p>○時間内に問題を解く。 ○図や絵で表現することに挑戦する。 <直接→間接></p> <p>○自分が説明しているところを指差ししながら、相手を意識して、自分の考えを話す。 ○(数の意味・立式の理由)等、パターンに沿って質問する。 ○数や言葉の言い間違いを指摘する。 ○質問の考えをはっきり話す。 ○考えをもらったことを、「つまり～ということですね。」と短くまとめて話す。</p> <p>○自分で解決したときは、先生を呼ぶ。 ○今日のあてを済ませよう。</p>	<p>○問題場面を想起している。 ○問題と関連点に着目している。 ○聞かれていることを理解する。</p> <p>○問題場面を想起している。 ○問題と関連点に着目している。 ○聞かれていることを理解する。</p> <p>○学年が上がるにつれて、間接指導の時間を少しずつ増やし、児童同士の学びを大切にします。</p>

導入では、直接指導によって課題解決のための見通しをもたせることが大切です。

学び合いの場面では同時間接指導として、児童の活動を見守る姿勢をもつことも必要です。

自分の考えを友だちに伝えることのできる力をつけることで、間接指導がより効果的なものとなります。

【R2 推進指定校 隠岐の島町立北小学校】